

## 護真寺のしだれ桜

《横田》

護真寺境内にあるしだれ桜は、樹高一メートル、根廻り五・二メートル、樹間一八メートルのみごとな老桜で、観応二年（一三五年）本禅等訳和尚によって護真寺が開基された折に、植えられたものと伝えられている。

老樹に咲く花は、まさに豪華な一幅の画のようにみごとである。近くにある旧横田陣屋跡にある御殿桜は、この桜の種がこぼれて生えたものといわれている。

土地の農家は、古くからこの桜の花の咲き出すのをみて、播種作業に入ったというので、種まき桜と呼ばれている。

県指定天然記念物（「梓衝村誌考」より）

## 出雲松の由来

《木之崎》

大字木之崎字合ノ原の旧大久保道路（田島道路とも言った）にある二本の黒松で、本多出雲守政利が天和二年（一六八二）に大久保の領主となった折、街道を開いて出雲街道と称した。その時記念に手植したといわれる。二本とも樹高二〇メートル、根廻り三メートルの太木で、木之崎八景では「女夫の松の夜の雨」として第一に挙げられている。老松の枝振りには三百年昔の名残りを留め、行く人の旅情を慰めてくれ、まさに佳景である。

（「梓衝郷土史」より）